

地域・家庭の教育力について

第 1 章 教育ビジョン策定の背景

「かながわ教育ビジョン」（神奈川県）

2 教育をめぐる現状と課題

(2) 家庭の教育力の低下

核家族化や少子化が進行し、子どもたちが家庭の中で、きょうだいと切磋琢磨したり、祖父母の経験から学んだりする機会は著しく減少しました。親 の子育ても、自身の経験の中にそのモデルを見いだすことが難しくなり、手探り状態で行わざるを得ない状況も生まれており、家庭の教育力が低下したと考える人も多くいます。

また、無責任な放任や過保護・過干渉は以前より多く見受けられるようになり、虐待を受ける子どもも増えています。

家庭はすべての教育の出発点として、暮らしの営みを通して、子どもが基本的な生活習慣*や規範意識を身に付け、家族への信頼感や思いやる心をはぐくむことで、学校や社会での幅広い学び合いの基盤を築くという、重要な役割を担っています。

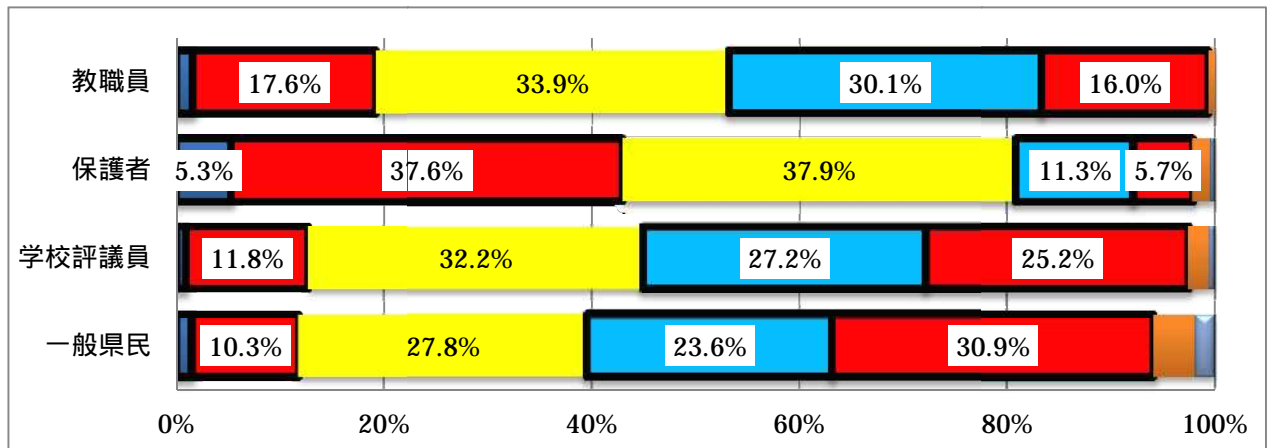
「親」とは、血縁関係の親のみならず、広く子どもの養育を担う大人のこと

学校・家庭・地域での教育課題

平成 25 年度「教育に関する意識調査」（神奈川県）

・家庭ではしつけや教育が十分に行われている。

そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答



・地域では子どもの教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われている。

